

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2014. 10.31 No.51

Japan Association of College and University

Archives : Eastern Japan Division

目 次

・西山 伸「第2回大学史展について」	1
・杉崎 友美「立教学院展示館開館記念シンポジウムに参加して」	2
・倉方 慶明「東京外国語大学文書館の設立経緯と展示活動」	4
・全国大学史資料協議会東日本部会 2014 年度総会議事録	6
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	11
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	15

2014年3月20日(木) 研究会

第2回大学史展について

京都大学大学文書館 西山 伸

東日本部会では、2013年3月14日に研究会を開催し、特別事業ワーキング・グループより、第2回大学史展の開催についての諸報告・提案が行われた（『大学アーカイヴズ』No.49 参照）。この時の議論を踏まえ、幹事会および新たに設置された第2回全国大学史展実行委員会では、展示の具体的な内容について1年間検討を重ねてきた。実行委員会では、検討の経過を広く会員に知らせ、また会員から意見や情報をいただく場として研究会を設けることが必要と判断し、幹事会に提案したところ、幸い了承を得たので今回の研究会開催に至った。

研究会では、まず齊藤研也氏より「第2回全国大学史展実行委員会のこれまでの経過について」と題した報告が、次いで西山より「第2回大学史展について」という報告が行われた。

【齊藤報告】

齊藤報告は、2013年3月14日の研究会以後における大学史展関係の活動についてであった。報告内容は以下の4点に集約される。

- ・2013年度東日本部会総会（2013年5月29日開催）において、第2回大学史展のテーマが「学生たちの戦前・戦中・戦後」と決定された。
- ・総会での承認に基づき、展示の具体的な内容を議論する第2回全国大学史展実行委員会が設置され、村松玄太（明治大学）・豊田雅幸（立教学院）・松原太郎（日本大学・事務局）・齊藤研也（神奈川大学・事務局）および西山が委員となった。
- ・実行委員会は3回開催され、各委員の分担に基づいて展示の内容について議論を行った。
- ・2015年夏の開催を目指して、今後は会員校に所蔵資料に関するアンケートを実施するなど準備を進める。

【西山報告】

西山報告は、実行委員会および幹事会における議論を踏まえ、現段階での大学史展の趣旨、いくつかの視点、および展示構成についてまとめたものであった。主な内容は以下のとおり。

I 展示の趣旨

近代日本の幕開けと共にその歴史が始まった日本の大学は、現在大きな「変革期」にあると言われていています。しかし、どのような変革の波に洗われようと、大学が学生たちの学びの場であるという本質が変わることはありません。本展示は、「学生たちの戦前・戦中・戦後」と銘打ち、そうした学生たちの歴史を取り上げます。その際、私たちは第一次世界大戦後の高等教育機関の拡充期から始めて、第二次世界大戦および戦後改革を経て高度経済成長期までを展示の対象とすることにしました。それは、これらの時代に学生たちがいかに生きたか、資料に基づいて見ていくことで、現在の学生・大学について考えるきっかけになり得ると考えたからです。

II いくつかの視点

①大衆化

- ・大学だけでなく、高等学校・専門学校・師範学校等も含めた総体としての高等教育
- ・「層」としての学生の出現

②学生の主体的意志

- ・進学意志
- ・課外活動（運動、文化）
- ・社会状況への関わり（左翼運動、戦争、戦後学生運動）

③敗戦を挟んだ連続と断絶

- ・大学そのものの連続性（組織、人員）
- ・「戦中派」、世代論



報告する西山伸氏

III 展示構成

[1] 戦前

制度解説／学校数・学生生徒数の増加／学生の諸活動／授業関係／日常生活／震災・恐慌と学生／教員の開始／留学生関係

[2] 戦中

制度解説／統制の強化／学生生活／報国隊・勤労奉仕／対米英開戦／学徒出陣／勤労動員／敗戦

[3] 戦後

制度解説／学生生活／女子大学生／戦後改革／授業関係／学生の諸活動／学生の変化

2014年5月29日(木) 全国大学史資料協議会東日本部会 2014年度総会シンポジウム

立教学院展示館開館記念シンポジウムに参加して

日本女子大学成瀬記念館 杉崎 友美

全国大学史資料協議会東日本部会 2014年度総会と立教学院展示館開館記念シンポジウムは、2014年5月29日(木)13時より立教大学池袋キャンパス太刀川記念館3階において開催された。「大学の新しい使命と展示活動—アカウンタビリティと自校教育を中心に—」というテーマのもと、西山伸氏(京都大学大学文書館)より「京都大学における歴史展示」、小枝弘和氏(同志社大学同志社

社史資料センター)より「同志社大学における展示活動—現状と課題—」、豊田雅幸氏(立教学院展示館)より「立教学院展示館—施設と活動の特徴—」と題した報告がなされ、その後総括討論が行われた。

西山氏は、歴史展示室が1925年竣工の時計台を改築した百周年時計台記念館1階に位置し、学内の教職員や学生、卒業生、その他来学者に大学創立以来の歴史を知ってもら

うための施設であると説明された。展示室は常設展「京都大学の歴史」「第三高等学校の歴史」と企画展の3つのスペースに分かれ、常設展には1939年の帝国大学完成期のキャンパス模型を設置し、1930年頃の下宿を再現、さらに創立期の大学をCGで示す映像ブースを置くなど、展示内容が文書ばかりで単調にならないよう工夫されている。展示の留意点としては、研究成果については原則として取り扱わないこと、戦時期・紛争期の取扱いについては大学組織としての戦争との関わりを扱うこと、帝国大学期と戦後という2つにテーマを絞り学生生活を重視した展示をするなど、独自のルールについて紹介された。また、自校教育には力を入れているが、学生や教職員に対する広報が課題であるとも述べられた。

小枝氏は2013年に設置されたハリス理化学館同志社ギャラリーの開館経緯について説明された。展示室は現在常設展示室と企画展示室にわかれ、6つのテーマで構成された常設展示室では資料の劣化を遅滞させるために年に6回の展示替えを行っていること、企画展示も年4回ほど実施していると報告された。同志社ギャラリーは、その使命を「初年次教育だけでなく教職員、諸学校生徒を含めた教育の場」とし、諸学校教職員全員に対して説明付きの見学会を案内し、また学生に対しては企画展の持ち込みを奨励するなど、施設の広報に力を注いでいる。自校教育については、今年度より小枝氏自身が「同志社の歴史」という授業を開始するなど尽力されている。

豊田氏は立教学院展示館開館の経緯、展示館の基本方針、施設・展示内容の工夫、展示館の存在意義、自校教育への活用について報告された。展示室は立教学院の歴史を学ぶことができる常設展と、企画展スペースに分けられる。展示館の常設展示は大きく5つのコーナーにわかれ、ステージ型、引き出し型、グリッド型の多様な什器が用いられている。立教発祥の地である築地校地の様子やキャンパスの変遷、戦前の学園生活を知る事ができるタッチパネルディスプレイや、子供向けのタブレット端末も設置され、立教学院につい



総括討論の様子

て視覚的に分かりやすく、また見るだけではなく触れて理解を深めてもらうための工夫がなされている。企画展スペースに置かれた本棚には立教学院関連の書籍が並ぶ予定であり、企画展を行う場合には移動させることも可能である。そして最も特徴的なのは、建物全体に大きな窓がいくつも見られることである。展示館は旧図書館を利用した施設のため、旧図書館の持つ建築上の特徴を活かした施設となっており、卒業生から窓枠を残してほしいとの強い要望を受けて、窓には88%遮光、紫外線99%カットの透過性のロールスクリーンを使用している。建物の特徴と利用者の要望を取り入れた造りになっている。

総括討論では、学生や教職員に施設を見学してもらうためにはどうすればよいか、戦時期・紛争期の取扱い、アーカイヴズと博物館の展示方法について、窓の遮光等について質疑応答が交わされた。

今回の報告において、三校ともに大学のシンボリックな歴史的建物に施設を置き、自校教育の場として活用されていることが理解できた。特に同志社ギャラリーでは資料の安全性を重視し完全遮光、立教学院展示館では卒業生の意向を汲み透過性のあるロールスクリーンにするなど、それぞれの施設の特徴を知ることができ、貴重な事例を学ぶことができたと思う。ご報告いただいた三氏と大会運営に当たられた皆様に厚くお礼申し上げます。

2014年7月17日(木) 研究会

東京外国語大学文書館の設立経緯と展示活動

東京外国語大学文書館 倉方 慶明

はじめに

去る2014年7月17日(木)、東京外国語大学において、全国大学史資料協議会研究会が開催された。50余名の方々に御参集頂き、「設立経緯とその活動」「展示活動」に関する報告と、文書館・収蔵庫・展示場の見学を実施した。以下、当日の報告を中心に東京外国語大学文書館の設立経緯と展示活動について概観したい。

1) 東京外国語大学文書館の設立経緯

東京外国語大学では、2012年4月大学文書館を発足させた。大学文書館の設立は、大学史の編纂や情報公開法・公文書管理法の法令への対応を契機とすることが多いが、本学においても同様のきっかけがあった。

遡ること1997-99年、本学では創立百周年記念事業として『東京外国語大学史』の編纂事業が行われ、その頃から「ユニバーシティ・ミュージアム」の呼称で、編纂事業終了後の資料の整理・活用が唱えられていた。しかし、同時期には北区西ヶ原から現在の府中市朝日町へのキャンパス移転事業が進められていたこともあり、資料群活用の構想は日の目を見ることなく、資料群は10余年の間新キャンパスの倉庫の一室に放置されることとなる。こうした言わば第1期文書館設置活動は実ることにはなかったが、文書館の根幹をなす歴史資料が収集されていたことが、第2期の設置活動を短期的に成功させる要因となった。

2009年に制定された公文書管理法は、国立大学に文書管理の再編を迫り、そして少なからぬ大学に文書館の設置について検討する機会をもたらした。本学でも、この法令整備が学内教授・学生らによる第2期設置活動の契機を生み、2011年には吉田ゆり子教授(現:文書館長)を中心に大学文書館設置準備室が発足し、体制整備に関する本格的検討が開始されることとなった。



報告する倉方慶明氏

2) 設立構想と展示活動の位置づけ

国立大学において文書館設置を検討する際、議論の中核となる点は、「国立公文書館等」の指定の有無であろう。国立大学にとって同指定の有無は、教授会の議事録などの大学法人の公文書(=法人文書)の移管を受けられるか否かに直結し、資料群の収集・整理から活用に至る文書館の活動範囲を定めるものとなる。本学では、当初より京都大学をはじめ先行する諸大学の見学・事例検討を重ねたが、結局、予算等の実務的諸問題の解決が課題となり、今現在に至るまで、「将来的に『国立公文書館等』指定を目指し前向きに議論する」という些か落ち着きの悪い着地点に留まっている¹⁾。

指定に関する議論を先延ばしにする一方で、当面の目標とされたのが、展示活動等による文書館の存在と活動の学内認知・貢献度を高めることであった。私見ではあるが、法令への対応を契機として文書館設置を目指す場合、文書館の存在意義が当該機関の内部・周縁部において、理解され難いという課題があるのではないだろうか。特に「ヒト・モノ・カネ」の資源が限りなく少ない小規模の大学が、未だ国内で「馴染みの薄い」組織である文書館を新設し、維持・発展してゆくには、学内及び卒業生を中心とした周縁部の理解な

¹⁾ 2014年8月末現在、本年度の「国立公文書館等」申請は断念することが決定された。但し、本年度中に学内合意形成を進め、来年度本格的に再挑戦する方針が固まっている。

くして成り得ない。そのため、本学では、展示活動をそうした大学の周縁部をも文書館活動に巻き込む為の戦略的・中核的活動と位置づけ、準備室段階の2011年11月頃から、歴史資料を用いた展示を開催し、2012年4月に大学文書館が正式に発足した後も、展示活動を文書館活動の主要部に据えている。

3) 東京外国語大学文書館の展示活動

展示活動の試みとして、本学では附属図書館1階の展示場において2011年頃より企画展を開催し(表1参照)、同時に2012年より「卒業生の憩いの場となる展示場」をテーマに展示場の整備に着手している(表2参照)。短期間に企画展の更新と追加整備を繰り返した背景には、小規模大学としての特徴がある。

多くの類縁施設では、新設或は大規模な一斉改装を実施することが多いものと推察されるが、小規模大学の本学ではそうしたまとまった予算を確保できる機会が限りなく少ない。そのため、内容の更新と追加整備を繰り返すことで来訪者に常に「新しい」展示を提供し、かつ学内外関係者に対しても文書館活動の実績を示すことで、その認知を高め次なる予算獲得につなげる、「更新」「段階的整備」を鍵とす

る展示方針が確立された。これらは元々、予算がない中での苦し紛れの対処法であったが、今では学内外に文書館活動をアピールする重要な役割を果たしている。また昨今、展示を呼び水とする卒業生からの資料寄贈・情報提供の増加もあり、展示の更新・追加整備は文書館にとって「実りある」活動となっている²⁾。
結びにかえて

以上、本学文書館の設立経緯と展示活動について概観したが、展示活動は小規模大学である本学文書館にとって、その存続にも関わる戦略的・中核的業務と言える。もちろんこうした点は、到底一般化できるものではないが、「ヒト・モノ・カネ」の資源が削られる中で、自らの活動をより積極的にアピールする必要性に迫られていることは各文書館に共通する課題であり、そうした時、展示活動は文書館活動の中で従来持っていた付随的な役割から中核的役割へと移行するのではないだろうか。やや勇み足な発言をすれば、展示活動は、文書館がその持てる情報資源を活かし、新たな交流・価値観を創出できる可能性をも秘めている。そうした可能性に近づけるよう本学の文書館でもささやかな努力を継続して行ければと考えている。

表1 企画展の開催状況

第1回	「外語祭の歴史」	2011. 11. ~ 2012. 3.
第2回	「史料に見る東京外国語大学」	2012. 3. ~ 2012. 11.
第3回	「東京外国語大学と校舎の思い出」	2012. 11. ~ 2013. 3.
第4回	「入学と卒業」	2013. 3. ~ 2013. 5.
第5回	「外語とボート」	2013. 5. ~ 2013. 8.
第6回	「歴代学長」	2013. 8. ~ 2013. 11.
第7回	「開学記念会 記念展」	2013. 11. ~ 2014. 2.
第8回	「入学と卒業 いまむかし」	2014. 2. ~ 2014. 4.
第9回	「学内競漕大会の歴史」	2014. 4. ~ (開催中)

表2 展示場整備の経過

経 過	
2012年 8月	百周年記念教育研究振興基金の採択(内定)
12月	業者選定完了
2013年 3月	展示場全体の整備(パネルレール、常設展示パネル)
6月	年表パネル、スポットライトの追加整備
11月	Digital Archivesの整備(デジタル展示)
2014年 3月	Digital Archivesの追加装飾
11月	Digital Archives更新プログラムの整備【予定】

^{注2)} 本年11月に「Digital Archives更新プログラム」(仮称)を整備し、在校生・卒業生からの提供を受けた資料(写真・情報等)を展示する計画を進行中である。卒業生から大学周縁部の文書館活動への関心を高める契機になると考えている。

全国大学史資料協議会
東日本部会 2014 年度総会議事録

日 時 2014 年 5 月 29 日 (木)
13 時～ 14 時
会 場 立教大学池袋キャンパス
太刀川記念館 3 階多目的ホール
東京都豊島区西池袋 3-34-1

[部会総会の成立]

*現会員数と出欠状況

機関会員 <総計> 67 <出席> 36
<欠席届> 14
個人会員 <総計> 33 <出席> 6
<欠席届> 11
総 計 <総計> 100 <出席> 42
<欠席届> 25

*総会定足数は、機関会員 67 (休会会員は除く)、個人会員 33 の総計 100 の過半数 = 50 である。

*部会規約 11 条 5 項に基づき、欠席届を総会議長への委任状とするため、出席会員数 (42) と欠席届提出会員数 (25) の合計は 67 となり、部会総会は成立した。

出席会員 学習院 神奈川大学 関東学院
恵泉女学園 國學院大學
国士館 自由学園 淑徳大学
女子美術大学 成城学園
聖心女子大学 聖路加国際大学
専修大学 大東文化大学
拓殖大学 中央大学 帝京大学
東海大学 東京家政大学
東京女子医科大学
東洋英和女学院 東洋学園大学
獨協学園 南山大学
日本女子大学 日本体育大学
日本大学 法政大学 武蔵大学
武蔵野美術大学 明治学院
明治大学 明星大学 立教学院
立教大学 立正大学
阿部伊作 桂 典子 古郡信幸
西山 伸 馬場弘臣 細見大作

(出席者合計 62 名)

開会の挨拶 益井 邦夫氏
(会長校 國學院大學校史・学術資産研究センター)

会場校挨拶 広田 勝一氏
(立教学院院長・立教学院展示館館長)

議長の選出 議長 桜井 昭男氏
(淑徳大学アーカイヴズ)
副議長 田中 智子氏
(立教大学立教学院史資料センター)

議 事 1. 2013 年度事業報告書・同決算報告について

事務局 (神奈川大学) から、配布資料「2013 年度事業報告書」に基づいて、昨年度の事業が報告され、会計委員 (明治大学) から配布資料「2013 年度収支決算書」(7 頁【表 1】)に基づいて昨年度の収支決算が報告された。次いで監査委員 (武蔵野美術大学) から決算が適正であった旨の監査報告 (8 頁【表 2】)があり、各報告について満場一致で承認された。

2. 2014 年度事業計画案・同予算案について

事務局 (神奈川大学) から、配布資料「2014 年度事業計画書(案)」に基づいて、本年度事業計画案が説明され、次いで会計委員 (明治大学) から配布資料「2014 年度収支予算書 (案)」(9 頁【表 3】)に基づいて本年度予算案が説明され、審議の結果、事業計画・予算案とも原案通り満場一致で承認された。

3. 名誉会員の推薦について

事務局 (日本大学) から、候補者の松崎彰氏の会に対する功績等が紹介され、「幹事会において、名誉会員内規に定める資格を充分満たしていると判断し、総会に推薦

【表 1】

全国大学史資料協議会東日本部会
2013 年度収支決算書
2013 年 4 月 1 日～ 2014 年 3 月 31 日

【収 入】

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
会費収入	1,550,000	1,480,000	70,000	
法人等会員	1,360,000	1,320,000	40,000	66 機関分× 20,000 円
個人会員	190,000	160,000	30,000	29 名分× 5,000 円+ 2012 年度分 3 名 15,000 円
利息収入	1,000	1,018	△ 18	
預貯金利息	1,000	1,018	△ 18	預金利息
参加費収入	660,000	558,000	102,000	
部会総会参加費	165,000	153,000	12,000	51 名分× 3,000 円 (5 月 29 日 中央大学後楽園キャンパス)
全国総会参加費	495,000	405,000	90,000	81 名分× 5,000 円 (10 月 9 日～ 11 日 明治大学駿河台キャンパス他)
印税収入	10,000	0	10,000	2014 年、本項目削除 幹事会に承済み
印税収入	10,000	0	10,000	2013 年分より放棄 (2013 年 10 月 3 日 覚書締結 京都大学学術出版会)
雑収入	0	0	0	
合 計	2,221,000	2,039,018	181,982	

【支 出】

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
運営費支出	120,000	11,597	108,403	
総会費	50,000	0	50,000	
幹事会費	20,000	2,476	17,524	飲料代
部会研究会費	50,000	9,121	40,879	昭和館入館料、飲料代
謝礼支出	100,000	64,956	35,044	
講師謝礼等	100,000	64,956	35,044	源泉所得税・復興特別所得税 追徴分 (2008 年～ 2013 年) 含む
消耗品費支出	10,000	6,106	3,894	
消耗品費	10,000	6,106	3,894	印鑑、コピー用紙、名札ケース、クリアホルダー
印刷費支出	380,000	332,445	47,555	
印刷費支出	380,000	332,445	47,555	封筒、会報 No.49、会報 No.50
通信費支出	100,000	68,602	31,398	
事務連絡費	100,000	68,602	31,398	切手、宅配便利用料金
手数料支出	10,000	2,536	7,464	
手数料等	10,000	2,536	7,464	金融機関送金手数料
参加費支出	500,000	393,646	106,354	
総会参加費	500,000	393,646	106,354	情報交換会・懇親会費
事業費支出	450,000	243,371	206,629	
出版事業	300,000	209,139	90,861	叢書・リーフレット分担金 → 西日本部会へ
その他	100,000	26,120	73,880	大学史展実行委員会
ホームページ事業	50,000	8,112	41,888	http://www.universityarchives.jp/ 維持管理費分担金
30 周年記念事業 積立金繰入支出	500,000	500,000	0	
予備費	50,000	—	50,000	
合 計	2,220,000	1,623,259	596,741	
当年度収支差額	1,000	415,759	—	
前年度繰越収支差額	4,098,370	4,098,370	—	
翌年度繰越収支差額	4,099,370	4,514,129	—	

【表 2】

2013 年度貸借対照表
2014 年 3 月 31 日

【資 産】

(単位：円)

項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
30 周年記念事業積立金	2,000,000	1,500,000	500,000	三井住友銀行 経堂支店普通預金
銀行預金	4,503,799	4,063,428	440,371	
三井住友銀行	4,503,799	4,063,428	440,371	三井住友銀行 経堂支店普通預金
郵便貯金	0	5,340	△ 5,340	
ゆうちょ銀行	0	5,340	△ 5,340	ゆうちょ銀行 通常貯金 (三井住友銀行口座へ移管)
現金	10,330	29,602	△ 19,272	
会 計 校	0	6,771	△ 6,771	明治大学 (三井住友銀行口座へ移管)
事 務 校	5,021	4,701	320	神奈川大学
事 務 校	5,309	18,130	△ 12,821	日本大学
合 計	6,514,129	5,598,370	915,759	

【負債・収支差額】

(単位：円)

項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
負債	2,000,000	1,500,000	500,000	
30 周年記念事業引当金	2,000,000	1,500,000	500,000	
収支差額	4,514,129	4,098,370	415,759	
収支差額	4,514,129	4,098,370	415,759	
合 計	6,514,129	5,598,370	915,759	

2014 年 4 月 24 日

上記の通り報告します。

会計委員 明 治 大 学 村松 玄太 ㊟

明 治 大 学 直井 哲也 ㊟

大東文化大学 浅沼 薫奈 ㊟

2014 年 4 月 30 日

監査の結果、適正と認めます。

監査委員 慶 應 義 塾 清野 早苗 ㊟

武蔵野美術大学 千羽 一郎 ㊟

【表 3】

全国大学史資料協議会東日本部会
2014 年度収支予算書
2014 年 4 月 1 日～ 2015 年 3 月 31 日

【収 入】

(単位：円)

項 目	2014 年度予算	2013 年度予算	増 減	摘 要
会費収入	1,510,000	1,550,000	△ 40,000	
法人等会員	1,320,000	1,360,000	△ 40,000	66 機関@ 2 万円 (2013 年度 66 機関)
個人会員	190,000	190,000	0	34 名 (2013 年度 30 名 @5 千円、2013 年度未納 4 名 @1 万円)
利息収入	1,000	1,000	0	
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息
参加費収入	450,000	660,000	△ 210,000	
部会総会参加費	150,000	165,000	△ 15,000	50 名 @ 3,000 円 (2013 年度中央大学 51 名)
全国総会参加費	300,000	495,000	△ 195,000	60 名 @ 5,000 円 (2013 年度明治大学 81 名)
(印税収入)	-----	10,000	△ 10,000	2014 年度より本項目削除
(印税収入)	-----	10,000	△ 10,000	
雑収入	0	0	0	
合 計	1,961,000	2,221,000	△ 260,000	

【支 出】

(単位：円)

項 目	2014 年度予算	2013 年度予算	増 減	摘 要
運営費支出	120,000	120,000	0	
総会費	50,000	50,000	0	会場費・非課税講師交通費
幹事会費	20,000	20,000	0	会場費・設備使用料他
部会研究会費	50,000	50,000	0	会場費・入場料・茶代他
謝礼支出	120,000	100,000	20,000	
講師謝礼等	120,000	100,000	20,000	講演料、原稿料、源泉税、課税交通費
消耗品費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費
印刷費支出	450,000	380,000	70,000	
印刷費支出	450,000	380,000	70,000	会報印刷費 (年 2 回)、封筒印刷費
通信費支出	120,000	100,000	20,000	
事務連絡費	120,000	100,000	20,000	会員連絡費、会報送料 (No.50 発送分を含む) 他
手数料支出	10,000	10,000	0	
手数料等	10,000	10,000	0	金融機関振込手数料他
参加費支出	600,000	500,000	100,000	
総会参加費	600,000	500,000	100,000	情報交換会費その他 (5 月部会総会、10 月全国総会)
事業費支出	550,000	450,000	100,000	
出版事業	300,000	300,000	0	叢書編集印刷、リーフレット印刷、その他
その他	200,000	100,000	100,000	展示事業準備費
ホームページ事業	50,000	50,000	0	http://www.universityarchives.jp/ 維持管理費分担金
30 周年記念事業 積立金繰入支出	500,000	500,000	0	
予備費	50,000	50,000	0	
合 計	2,530,000	2,220,000	310,000	
当年度収支差額	△ 569,000	1,000	—	
前年度繰越収支差額	4,514,129	4,098,370	—	
翌年度繰越収支差額	3,945,129	4,099,370	—	

することとした」との説明があった。審議の結果、松崎氏の名誉会員への推薦を満場一致で承認された。

4. その他

事務局（日本大学）から、役員の任期満了にともなう改選について、新たに幹事として3校を加えた「2014年度役員（案）」が提起された。審議の結果、原案通り満場一致で承認された。

閉会の挨拶 小松 修（新会長校 日本大学
広報部大学史編纂課）

立教学院展示館開館記念シンポジウム

「大学の新しい使命と展示活動—アカウンタビリティと自校教育を中心に—」

〔概要〕 本シンポジウムは、全国大学史資料協議会東日本部会2014年度総会に引き続き、2014年5月9日に開館した「立教学院展示館」の開館を記念する催しとして開催された。なお、総合司会進行役は奈須恵子氏（立教大学文学部教授・立教学院史資料センター副センター長）、パネリスト報告の進行と小括は桑尾光太郎氏（学習院アーカイヴズ）がそれぞれ担当した。

開会の辞として、寺崎昌男氏（立教学院本部調査役）は、大学史資料の公開はアーカイヴズが担うものであり、立教学院においてもこの展示館は公開・展示のための施設として学内外に向けた重要な場となるであろう、と述べた。

続いて3名の報告者より報告があった。西山伸氏（京都大学大学文書館教授）は「京都大学における歴史展示」と題し、京都大学における文書館の概要と展示内容について報告した。小枝弘和氏（同志社大学同志社史資料センター・社史資料調査員）による報告「同志社大学における展示活動—現状と課題—」では、

2013年11月に開設した「ハリス理化学館同志社ギャラリー」における取り組みについて紹介した。最後に、豊田雅幸氏（立教学院展示館）が「立教学院展示館—施設と活動の特徴—」と題し、「立教学院展示館」の設置経緯や基本方針および展示内容、さらに自校教育への活用や今後の展望も含めて詳細に報告した。

報告の後、会場からの質疑応答を加えながら全体討論に移った。西山氏は、展示の広報的機能とアカデミズムとのバランス、さらにアーカイヴズの業務としての学内全体でのバランス、という二つの側面を指摘した。また小枝氏は、展示という情報発信の場を形作るためには如何に歴史的根拠を固めるかがポイントであるとし、地域への還元をも意識した基盤作りこそが重要である、と述べた。この先行2事例からの指摘をふまえながら、豊田氏はこれからの展示館も自校史教育的役割も含めた情報発信を形にする場として、学内外とのバランスをとりつつ活動を進めていきたい、と将来的な期待を含めた展望を述べた。

（椿田卓士）

見 学 立教学院展示館
（メーザーライブラリー記念館）

〔概要〕 立教大学池袋キャンパスにある立教学院展示館は、同大学をはじめ立教学院各校の教育・研究活動の学術的発信と自校学習の場として活用されることを目的とした施設であり、長らく図書館として利用されてきたメーザーライブラリー記念館2階に、本年5月に開館した。

同館は、池袋キャンパスのシンボルゾーンを形成するレンガ建造物群の一つであり、東京都の歴史的建造物にも選定されている。そのため展示館

は、窓や梁など旧来の建物のたたずまいが残された空間となっている。展示スペースには、立教学院の歴史を学ぶ常設展示と、企画展示のブースがあり、常設展示には貴重な資料群や入念なレプリカを配列し、引き出し式の展示ケースを用いるなど、随所に工夫が光る展示が行われている。なかでもタッチ型ディスプレイや、来館者の年齢に応じたタブレット端末の設置など、最新のデジタル技術を駆使した展示施設が注目された。

(渡邊 卓)

情報交換会 立教大学セントポールズ会館において情報交換会を開催した。副会長の馬場弘臣氏から開催の挨拶が、名誉会員の松崎彰氏から乾杯の発声があった。司会進行は日本大学の松原太郎氏が務めた。新規入会会員、初参加会員等の挨拶があり、和気あいの雰囲気の中情報交換会が行われた。最後に、立教学院展示館の豊田雅幸氏から閉会の挨拶があり、情報交換会を終了した。

全国大学史資料協議会 東日本部会幹事会議事録

第 135 回 2014 年 3 月 20 日 (木)
12 時 30 分～ 14 時 00 分

会 場 武蔵野美術大学
新宿サテライト room A・B
東京都新宿区西新宿 1-25-1
新宿センタービル 9 階
出 席 神奈川大学 國學院大學
専修大学 大東文化大学
東海大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
西山 伸

議 題 (1) 2013 年度研究会について
・研究会担当東海大学から、本日の

研究会について概要などの説明があった。次いで、次年度の研究会について、各会員にアンケート(3月24日締め切り)をお願いしているが、本日も重ねてアンケート用紙を配るとの報告があった。

(2) 2014 年度部会総会について

・事務局(日本大学)から、部会総会は5月29日(木)に開催の予定であること、会場校となる立教学院から本協議会との共催によるシンポジウムを開催したい旨の提案内容が報告され、承認された。引き続き、立教学院と実施に向けて詰めていく。

(3) 第2回大学史展実行委員会について

・実行委員長西山氏から、本日の研究会での報告について説明があった。

(4) 会報について

・会報編集担当神奈川大学から、『会報』No.50号を2014年3月31日付発行に向けて編集集中であるとの報告があった。

(5) 2014 年度幹事会について

・事務局(日本大学)から、資料に基づき2014年～2015年度部会役員(案)について協議し、新たに学習院に幹事校を委嘱することが承認された。また、事務局業務、会報・研究叢書の編集、研究会企画、各議事録作成など一部の担当校に負担が偏らない方法について検討した。

第 136 回 2014 年 4 月 24 日 (木)
14 時～ 16 時 30 分

会 場 日本大学会館
第2別館3階大教室
東京都千代田区五番町 12-5
出 席 神奈川大学 國學院大學
専修大学 大東文化大学
東海大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学

西山 伸 馬場弘臣

議 題 (1) 2014 年度研究会について

- ・研究会担当（東海大学）から、2013 年度末に実施した「研究会に関するアンケート集計結果」の詳細と、研究会企画にあたっての留意事項について説明があった。
- ・2014 年度の研究会テーマは、第 2 回大学史展の開催などを鑑み、「展示をめぐる諸問題—資料の活用と公開」とすることにした。
- ・7 月研究会は、アンケートの内容などを勘案した結果、東京外国語大学文書館にて開催することとし、準備を進めることにした。

(2) 会報について

- ・会報編集担当（神奈川大学）から、会報 No.50 を 2014 年 3 月 31 日付で刊行したとの報告があった。

(3) 2014 年度東日本部会総会について

- ・事務局（日本大学・神奈川大学）から、総会案内、2013 年度事業報告書、2014 年度事業計画書（案）について説明があり承認された。誤記などについては、引き続き確認することにした。
- ・会計委員（明治大学）から、2013 年度収支決算書、2014 年度収支予算書（案）について説明があった。予算案については、当会の財政事情を鑑み積極的に編成したいとする説明があり、種々検討の結果承認された。なお、第 2 回大学史展に関する予算の増額提案や、記載事項の修正のため、引き続き持ち回りで検討することにした。
- ・事務局（日本大学）から、時間割・担当者等について説明があり、当日の出席状況に関わる担当者の選定については事務局に一任した。

(4) 2014 年度東日本部会役員について

- ・事務局（日本大学）から、東日本

部会 2014—2015 年度役員案について、資料にもとづき説明があり承認された。また、幹事会の業務分担について、検討中であった会報編集・発行担当は國學院大學、研究会企画・運営担当は事務局、ホームページ運営担当は明治大学、大学史パンフレット担当は武蔵野美術大学とすることにした。

- ・役員選出に関連して、その適正数、任期、あり方などについて広く議論をする必要の提案がなされた。

(5) 新会員校について

- ・事務局（日本大学）から、機関会員として聖心女子大学の入会申し込みが報告され承認された。

(6) その他

- ・事務局（日本大学）から、西日本部会担当の 2014 年度総会・全国研究会について、日程（10 月 8 日～10 日）、記念講演（講師・野村鮎子氏）、全国研究会テーマ（「学内業務文書の管理と活用」）、会場（1 日目桃山学院〔昭和町〕、2 日目大阪大学豊中キャンパス、3 日目大阪市内〔見学会〕）などの報告があった。また、西日本部会から、全国研究会の報告者 1 名は、東日本部会の私立大学から推薦して欲しい、有志夕食会の参加申込みは、大会申し込み時に行いたいとの要請があり了承した。
- ・事務局（日本大学）から、広島大学文書館の 10 周年に関連して、部会名簿の提供を行なったとの報告があった。

第 137 回 2014 年 5 月 29 日（木）

12 時～13 時

会 場 立教大学池袋キャンパス

太刀川記念館 3 階多目的ホール

東京都豊島区西池袋 3-34-1

出席 神奈川大学 國學院大學
 専修大学 大東文化大学
 東海大学 日本大学
 武蔵野美術大学 明治大学
 西山 伸 馬場弘臣
 (オブザーバー)
 学習院 法政大学 立教学院

議題 (1) 2014年度東日本部会総会について

- ・事務局(日本大学)から、部会総会における時間割・担当者等の最終確認があり承認された。
- ・記念シンポジウムは、立教学院との共催であることから、パネリスト1名分の謝金を当協議会で負担することとした。

(2) 2014年度研究会について

- ・研究会担当(東海大学)から、7月研究会は、7月17日(木)に東京外国語大学文書館の見学と関連講演を開催する旨の説明があり、承認された。

(3) 2014年度全国研究会について

- ・事務局(日本大学)から、2014年度全国研究会について、本年度担当の西日本部会から、テーマを「学内業務文書の管理と活用」として報告者3名を考えているが、内1名は東日本部会の私立大学から推薦して欲しい旨の依頼がきているとの報告があった。検討の結果、候補2校が挙げられたが、他に推薦校があれば事務局に連絡し、それを含めて検討することとした。

(4) 会員の退会について

- ・事務局(日本大学)から、個人会員1名の退会希望があったとの報告があり承認された。

(5) その他

- ・会計担当(明治大学)から、旅費交通費規程について、引き続き検討する旨の報告があった。

第138回 2014年7月17日(木)

13時～14時

会場 東京外国語大学府中キャンパス本部
 管理棟2階中会議室

東京都府中市朝日町3-11-1

出席 学習院 神奈川大学 國學院大學

専修大学 大東文化大学 東海大学

日本大学 法政大学

武蔵野美術大学 明治大学

立教学院

馬場弘臣

議題 (1) 2014年度東日本部会総会の総括について

- ・事務局(神奈川大学)より、5月29日に立教大学で開催された2014年度部会総会について、参加人数等の報告と総括があった。

(2) 研究会および部会総会などの分担について

- ・事務局(明治大学)より、分担の幹事輪番制化提案があり、一部修正の上承認した。
- ・事務局(神奈川大学)より、記録担当校(者)の確認があり、一部修正の上承認した。

(3) 2014年度総会・全国研究会について

- ・事務局(明治大学)より、2014年度総会ならびに全国研究会について、報告者及び司会の選出依頼について説明があった。前事務局(日本大学)より追加説明があり、報告者を桑尾光太郎氏(学習院)、司会を一任(会長及び事務局)とすることを承認した。

(4) 第2回大学史展について

- ・事務局(明治大学)より、7月8日実行委員会開催の結果、アンケートを再度依頼する旨報告があった。松原太郎氏(日本大学)を実行委員に加える旨の提案があり、承認した。

- (5) 休会中の会員の取り扱いについて
- ・事務局（明治大学）より、休会扱いの機関会員については、規程及び公平性の観点から、意向を確認した上で退会とすることが提案され、承認した。
- (6) その他
- ・入会申し込み（個人会員・山崎裕子氏）を承諾した。
 - ・退会届（機関会員・工学院大学、個人会員・1名）の受理について報告があった。
 - ・第90回研究会における、東日本部会会員以外2名の出席について承認した。
 - ・リーフレット作成について、本年10月を目途に立案し、本年度中に完成させることを承認した。デジタルファイル化及び費用負担について、今後西日本部会と折衝することとした。
 - ・研究叢書制作について、担当（日本大学）より状況報告があった。
 - ・2015年度総会ならびに全国研究会の開催候補地について、審議した。仙台、名古屋、北陸、東京、松本などが候補に挙げられ、会長及び事務局で調整していくことを承認した。
 - ・次回第139回幹事会を、9月25日（木）13時より、明治大学駿河台キャンパス内で、開催することを確認した。

第139回 2014年9月25日（木）

13時～14時15分

会 場 明治大学駿河台キャンパス
創立100周年記念大会館3階第2
会議室

東京都千代田区神田駿河台1-1

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學
専修大学 大東文化大学 東海大学

日本大学 法政大学
武蔵野美術大学 明治大学
立教学院
西山 伸

- 議 題 (1) 2014年度総会・全国研究会について
- ・事務局（明治大学）より、2014年度総会ならびに全国研究会準備について報告があり、承認した。
- (2) 2014年度研究会について
- ・事務局（明治大学）より、12月期、1月期、3月期の企画提案があり、承認した。
- (3) 2015年度総会・全国研究会について（東日本部会担当）
- ・事務局（明治大学）より、会長・事務局協議の結果、宮城県仙台市内で開催する提案があった。審議により、主会場について、2015年10月7日（水）第1日目を東北大学、8日（木）第2日目を東北学院へ協力依頼することとし、今後事務局、開催校で詳細を企画する旨、承認した。
- (4) 第2回大学史展について
- ・西山伸氏より、9月25日午前開催の実行委員会について、報告があった。42機関よりアンケート回答があり、今後の計画について承認した。
- (5) 新入会員について
- ・事務局（神奈川大学）より、高橋保氏の個人会員・入会申し込み承諾について、確認した。
 - ・事務局（神奈川大学）より、個人会員1名の2015年3月31日退会について、報告があった。
 - ・事務局（明治大学）より、休会扱い会員に対する意向聴取結果について報告があり、立教女学院の機関会員復帰、愛知教育大学、駒沢女子大学、聖学院大学、千葉商科

大学、東京基督教大学、名古屋大学、日本工業大学、宮城学院の退会を確認した。

(6) シンポジウムの後援依頼について
 ・事務局（神奈川大学）より、情報保存研究会・社団法人日本図書館協会共催行事への後援承認について、確認した。

(7) その他

・リーフレットについて

事務局（明治大学）より、リーフレットデザインについて、武蔵野美術大学が引き受けることとなった旨、報告があった。リーフレットの中に、「会員一覧」を含めるよう意見があった。リーフレット使用状況への質問や、要否、費用負担等について意見が交わされ、次回以降のリーフレットについて西日本部会と協議することとした。

・研究叢書第 15 号について

日本大学より、刊行時期が 10 月中旬以降となる旨説明があった。あわせて仕様、見積もり状況について、報告があった。

・会報“大学アーカイヴズ第 51 号”について

國學院大學より、状況説明があった。

全国大学史資料協議会 東日本部会研究会記録

第 89 回 2014 年 3 月 20 日（木）
14 時 00 分～16 時 30 分

会場 武蔵野美術大学
新宿サテライト roomA・B
東京都新宿区西新宿 1-25-1
新宿センタービル 9 階

出席 学習院 神奈川大学
國學院大學 国士館 淑徳大学
女子美術大学 成蹊学園
大東文化大学 東海大学 東邦大学

日本体育大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
西山 伸 東田全義（以上 20 名）

会長挨拶 益井 邦夫

（國學院大學 校史・学術資産 研究センター）

司会 村松 玄太

（明治大学 明治大学史資料センター）

報告 ①「第 2 回全国大学史展実行委員会のこれまでの経過について」

（神奈川大学大学資料編纂室

齊藤研也氏）

②「第 2 回大学史展について」

（京都大学大学文書館

西山 伸氏）

概要 はじめに齊藤氏から「第 2 回全国大学史展実行委員会のこれまでの経過について」として、第 2 回大学史展の開催にあたり、その実行委員会発足までの経過と、発足後の委員会の開催状況および今後のスケジュールなどの報告があった。

次いで、実行委員会委員長の西山氏から「第 2 回大学史展について」として、テーマ「学生たちの戦前・戦中・戦後」の展示趣旨、およびいくつかの視点、そして戦前・戦中・戦後の時期区分に沿って、学生に関わる具体的な資料例に基づいた展示構成が詳述された。

以上の報告を受けて質疑応答では、出席会員から、所蔵する資料情報の提供や、展示による資料劣化を考慮するため展示環境についての質問などがなされたほか、展示を効果的に見せる方法など種々討論が行なわれた。実行委員会は、ここでの議論を展示内容に反映させたいとし、引き続き検討を進めていくことを確認して、第 89 回研究会は終了した。

（齊藤研也）

第90回 2014年7月17日(木)
 14時30分～17時
 会場 東京外国語大学府中キャンパス
 本部管理棟2階 中会議室
 出席 学習院 神奈川大学 関東学院
 國學院大學 国際基督教大学
 淑徳大学 上智大学 聖心女子大学
 聖路加国際大学 専修大学
 大東文化大学 拓殖大学 中央大学
 東海大学 東洋英和女学院
 獨協学園 日本体育大学 日本大学
 法政大学 武蔵野美術大学
 明治学院 明治大学 立教大学
 立教学院 立正大学
 石田順二 松崎 彰 倉方慶明
 清水善仁 橋本久美子
 馬場弘臣 古郡信幸 細見大作

【西日本部会会員：

大阪大学 菅 真城】

【会員外：株式会社トータルメディア
 開発研究所 久松良介、瀬戸春佳】
 (以上、46名)

会長挨拶 小松 修
 (日本大学 広報部大学史編纂課)
 司会 村松 玄太
 (明治大学 明治大学史資料センター)
 報告 ①「東京外国語大学文書館
 ー設立経緯とその活動ー」
 (東京外国語大学文書館
 倉方 慶明氏)
 ②「東京外国語大学文書館
 ー展示活動の実践ー」
 (東京外国語大学文書館
 倉方 慶明氏)
 見学 大学文書館作業室・収蔵庫・展示場
 概要 はじめに東京外国語大学文書館館
 長の吉田ゆり子教授からご挨拶があ
 り、続いて東京外国語大学の歴史を
 紹介するビデオが15分間放映され
 た。その後、同大学文書館の倉方慶
 明氏が「設立経緯とその活動」と題
 して、文書館設立までの経緯と現在

の活動状況について報告された。同
 文書館では、学内での文書館業務の
 認知度を高める方策として展示業務
 を重視しているとのことで、引き続
 き倉方氏が「展示活動の実践」と題
 して、展示場整備の経過とこれから
 の展示活動等について報告された。

報告後に2班に分かれて、東京外
 国語大学文書館作業室、収蔵庫、展
 示場を見学した。展示場は図書館の
 1階に設置されており、1フロアー
 に常設展、企画展、今昔コーナーの
 3ブロックで構成されている。見学
 終了後、会議室に戻って質疑応答に
 うつり、文書館設置と公文書管理法
 との関係、文書館の学内での位置づ
 けなど多数の質問があった。

(松原太郎)

ご案内

全国大学史資料協議会および同協議会
 東日本部会に関するお問い合わせ、入会
 申し込みは、下記へご連絡ください。

【神奈川大学 大学資料編纂室】

〒221-8686
 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
 ☎ 045-481-5661

【明治大学史資料センター】

〒101-8301
 東京都千代田区神田駿河台1-1
 ☎ 03-3296-4085

会報編集

【國學院大學 校史・学術資産研究センター】

〒150-8440
 東京都渋谷区東4-10-28
 ☎ 03-5466-6677